

堀内基金奨励賞候補者の推薦募集

日本気象学会の堀内基金奨励賞は、気象学の境界・周辺及び未開拓の分野における調査・研究・著述等により気象学及び気象技術の向上に寄与しているものに贈られる賞です。これまでに過去3回（6件、7名）の顕彰が行なわれ、平成3年度はその4回目に当たります。

堀内基金奨励賞候補者推薦委員会は同賞受賞者選定規定に基づき、候補者を理事会に推薦します。

つきましてはこの規定の趣旨に沿う最も適切な候補者を選定するための参考資料として、下記のとおりひろく会員からの推薦を募りますので御協力をお願い申し上げます。用紙はなるべくB5版横書きを希望します。

記

1. 推薦期限

1991年4月30日（火）

2. 宛 先

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内、日本気象学会

堀内基金奨励賞候補者推薦委員会

3. 推薦書記入事項

(a) 候補者所属氏名

(b) 推薦する業績

(c) 推薦理由（主たる論文リストを含む）

(d) 推薦者所属氏名印

日本気象学会堀内基金奨励賞候補者推薦委員会

安成哲三(担当理事), 岩坂泰信, 駒林 誠, 近藤純正,
松野太郎



倉嶋厚会員が第1回国際気象フェスティバルで「ベストデザイン賞」を受賞

フランスのパリ郊外のイシレムリノ市で、1991年2月7～10日に第1回国際気象フェスティバルが開催された。気候変動やオゾン層の破壊、衛星気象をはじめ多くの講演会や、フランス気象局で天気予報のために使われている観測データや数値予報などのカラーディスプレイによる展示のほか、テレビの天気番組のコンテストが行われた。

コンテストには18カ国から25の放送局の気象キャスターが参加した。倉嶋会員は、NHK総合で毎週日曜日に放送されている「おはようサンデー」のなかから、昨年

12月の番組のビデオテープとともに参加し、フェスティバル賞・ベストデザイン賞・ベストルックス賞のうち、気象情報を分かりやすく興味をひくように作られた番組を制作した気象キャスターに対して贈られるベストデザイン賞に選ばれた。

このフェスティバルを主催したイシレムリノ市は、新聞社や通信社、広告会社などの支社が多い。情報都市としての発展をめざすため、このような国際イベントがおこなわれた。

(青木 孝)

第23回乱流シンポジウム論文募集

下記の通り第23回乱流シンポジウムを開催します。発表内容は広く乱流に関する理論、実験および数値解析等です。多数の御参加をお待ちしています。

記

1. 主催：日本流体力学会
2. 協賛（依頼中）：応用物理学会，化学工学協会，可視化情報学会，東海流体熱工学会，土木学会，西日本乱流研究会，日本海洋学会，日本風工学会，日本機械学会，日本気象学会，日本建築学会，日本航空宇宙学会，日本混相流学会，日本燃焼学会，日本農業気象学会，日本バイオレオロジー学会，日本物理学会（五十音順）
3. 開催日：1991年7月23日（火）～25日（木）
4. 会場：名城大学理工学部（天白校舎，11号館）
〒468 名古屋市天白区塩釜口1-501
TEL 052-832-1151
5. 発表形式：口頭発表によるセッション（OS）に加えて，ビジュアル・セッション（VS：ポスター，ビデオ，パソコン等）を設けます。
6. 申込方法：所定の申込票（はがき）と論文要旨用原稿用紙を用いて下さい。原稿はそのまま縮小してB5版の「論文要旨集」をつくります。発表責任者（登壇者）は日本流体力学会会員であることを要します。詳

細は下記にお問い合わせ下さい。

7. 申込締切：1991年5月31日（金）必着
8. 参加登録費：シンポジウムに参加される方は当日会場参加登録費：会員（協賛団体会員を含む）2,000円，非会員3,000円，学生会員1,000円，同非会員2,000円（論文要旨集の代金を含む）をお支払い下さい。
9. 講演論文集：上記「論文要旨集」とは別に，発表者にはシンポジウム終了後に発表した論文の原稿を提出していただき，「講演論文集」を発行します。予約御希望の方は，予約代金2,500円（送料を含む）を参加登録費とともにお支払い下さい（郵送による予約も可）。予約受付の期限は7月25日です。それ以降は会員3,000円，非会員3,500円（送料別）となります。
10. 懇親会：7月24日（水）の講演終了後，懇親会を予定しています。
11. 連絡先：講演申込および郵送による予約受付，申込用紙の請求，入会申込，その他本シンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いいたします。
〒223 横浜市港北区日吉4-1-1
慶応大学内
日本流体力学会乱流シンポジウム係



山元龍三郎会員が運輸省交通文化賞を受賞

本会の山元龍三郎会員が平成2年度の運輸省交通文化賞を受賞された。これは，同会員の多年にわたる優れた研究業績および気象審議会委員，気候問題懇談会温室効

果検討部会長として気象業務の推進と発展に貢献されたこと等，交通文化への多大な功績に対して贈られたものである。（藤谷 徳之助）

への遷移についての数学的研究とか、National Bureau of Standards の G.B. Schubauer (写真3) による風洞内での平板上での乱流遷移の実験的研究とかが流行しており「地球物理学的乱流研究」にはようやく C.F. von Weizsäcker とか A.M. Kolmogoroff とか A.N. Oboukhov たちの「乱流の相似理論」が世に知られだし

た頃であった。Lin も Schubauer も Obserber として MIT に来ていたのであるが、その後のことは私にはよく判らない。

それからもう40年たった。今の世界の大気乱流研究はどうなっているのであろう。若い方におききたいものである。
(1990年12月17日)



都田菊郎会員がロスビー賞を受賞

1991年度のアメリカ気象学会のロスビー賞(The Carl-Gustaf Rossby Research Medal)は、アメリカ大気・海洋局地球流体力学研究所(GFDL)の都田菊郎会員に与えられることとなった。ロスビー賞は毎年、大気の構造および振舞に関する人類の理解に大きく寄与した研究者に与えられるアメリカ気象学会の最高の榮譽である。正式の授賞式は、1991年1月16日、ルイジアナ州ニューオーリンズの第71回の恒例の授賞夕食会の席上で行われた。

日本人研究者ではこれまでに UCLA の荒川昭夫会員が1977年度に受賞している。

都田博士は、現在 GFDL の上級研究員であり、同時にプリンストン大学、大気・海洋学科の教授相当講師として教鞭をとっている。賞は、同氏の「大気の数値予報を週間、1カ月、および季節の時間スケールにまで延長すること」に関する研究に与えられたものである。

都田氏は東京大学理学部地球物理学科を1953年に卒業し、1961年に正野重方教授のもとで博士号を取得している。1957~1965年東京大学の助教授を務め、その後当時ワシントンにあった GFDL に移った。氏は1958年に東大において、「雨の数値予報の研究」に携わり、その後1971年に「成層圏における突然昇温」を最初に数値モデルによって手掛けている。アメリカにおいては、数値モデルに関して格子分解能と物理過程のパラメタリゼーションが、週間予報の向上に対して重要であることを主張し、大気および海洋のデータ同化作業に精力的に携わった。またオーストラリア気象局の数値予報の開発に貢献

し、さらにヨーロッパ中期予報センターの設立には、氏らの研究が決定的な動機を与えている。

現在都田氏とそのグループが行っている研究は、同氏の言によれば次のようなものである。

「1カ月予報の精度は現業で扱うには十分ではない。おそらく、精度は将来もこの程度であらう。しかし、現在でも予報は時により素晴らしい結果を1カ月間与え、あるいは全局的はずれの結果が出ることもある。要するに、それは決定論的天気予報が本質的な限界に達していることを物語っているのであろう。とは言え、決定論的でなく1カ月平均とか季節平均の確率論的天気要素を取り扱うことにすれば、季節予報も可能性があるのでなかろうか。現に、エル・ニーニョ、赤道帯の旱魃は季節予報が可能であり、アメリカのような中緯度でも旱魃などがある程度予想可能であろうと言われていた。このような長期の予想には大気・海洋結合モデルが不可欠であり、水温を正確に予測することはもっとも重要な作業である。」

都田氏は、アメリカ気象学会のフェロー(Fellow)であり、アメリカ商工省からは既に金メダルを2回にわたって受けている。第1回目は1972年に「決定論的数値モデルによる天気予報の先駆的研究」に対し、第2回目は1988年に「大気モデルの改良に関する研究、および、これらの改善要素を現業予報に組み込む共同作業」に対してである。なお、氏は1956年に日本気象学会賞・1983年に日本気象学会藤原賞を受賞されている。

(藤谷 徳之助)

「天気」38. 3.



地学雑誌特別号「メッシュマップと地学」刊行のお知らせ

東京地学協会では機関誌「地学雑誌」の特別号「メッシュマップと地学」(99巻6号)を刊行しました。国土地理院など数値地図(メッシュマップ)の整備に携わる諸官庁の実務担当者と、それを利用して研究を行っている大学などの研究者が執筆した、合計25編(194頁,うちカラー15頁)の論文を掲載しています。数値地図の整備状況,リモートセンシングや環境問題への適用,研究の

現状,将来への展望などの内容が盛り込まれています。一部2100円(送料300円込み,消費税なし)

申込先 〒102 東京都千代田区二番町12-2

東京地学協会 TEL 03-3261-0809

方法 現金書留または郵便振替口座 東京 0-66278
(編集委員会)

月例会「第35回山の気象シンポジウム」のお知らせ

日時:1991年6月15日(土)13時から

場所:気象庁第一会議室(5階)

講演希望の方は演題に200字以内のabstractを

つけて4月末までに気象庁通報課岡野光也(〒100 千代田区大手町1-3-4)まで郵送して下さい。

訂 正

巻号	頁	誤	正
38. 1	目次	(2)全球解析システムの過去・現在・未来 我国の数値予報システムの現状(2)	我国の数値予報システムの現状(2) 全球解析システムの過去・現在・未来
38. 1	目次		カラーページ 氏名 新野 宏
38. 2	92 頁	中 村 晃 三	内 野 修
38. 2	目次	中 村 晃 三	内 野 修